

【大腸がん検診精度管理5指標】(R元年度)

単位 %	市町																										検診機関			
	金沢市		七尾市	小松市	輪島市		珠洲市	加賀市		羽咋市		かほく市		白山市		能美市	野々市市		川北町	津幡町		内灘町		志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町	成人病 予防セン ター	予防医 学協会
検診実施方法	集団	個別	集団	集団	集団	個別	集団	集団	個別	集団	個別	集団	集団	集団	個別	集団	集団	個別	集団	集団	個別	集団	個別	集団	集団	集団	集団	集団	集団	集団
対象者数(人)	179,988		20,789	42,055	10,219		5,581	27,229		8,697		13,851		45,472		19,624	19,832		2,432	15,735		10,822		8,249	5,377	6,961	3,298	6,884	175,374	175,374
受診者数(人)	2,440	10,902	1,565	3,974	727	61	484	2,120	168	614	205	959	409	1,864	1,791	2,065	1,308	911	350	902	677	849	304	805	604	570	248	436	13,341	9,543
受診率	1.4	6.1	7.5	9.4	7.1	0.6	8.7	7.8	0.6	7.1	2.4	6.9	3.0	4.1	3.9	10.5	6.6	4.6	14.4	5.7	4.3	7.8	2.8	9.8	11.2	8.2	7.5	6.3	7.6	5.4
要精検率	5.2	6.2	6.2	6.9	7.0	8.8	7.7	6.3	8.5	5.7	8.8	5.3	5.8	5.4	7.3	6.6	5.1	7.3	5.7	6.7	4.7	5.6	4.9	8.2	5.1	6.8	7.0	6.1	6.1	6.5
精検受診率	62.3	76.0	76.4	79.6	82.2	83.3	77.1	76.4	91.2	71.7	79.5	82.2	93.6	73.2	85.0	76.6	81.4	85.5	71.4	82.5	83.0	81.2	86.2	78.8	84.2	75.9	65.7	79.6	74.2	78.8
大腸がん発見率※	0.143	0.221	0.179	0.215	0.155	0.368	0.283	0.192	0.000	0.213	0.171	0.200	0.440	0.193	0.419	0.185	0.130	0.267	0.192	0.110	0.100	0.196	0.131	0.295	0.208	0.319	0.158	0.239	0.215	0.184
陽性反応適中度※	2.390	3.672	2.834	3.338	2.273	5.128	3.889	3.018	0.000	3.797	1.878	3.248	6.250	3.378	5.333	2.932	2.444	3.791	3.106	1.782	1.724	3.467	2.367	3.735	3.448	4.728	2.286	3.750	3.539	2.819

※ 市町は地域保健・健康増進事業報告、検診機関は石川県生活習慣病管理指導協議会における課題検討結果報告による。

※ 対象者数、受診者数、受診率は40～69歳、その他の指標は40歳以上を算定の対象としている。

※ 市町のがん発見率と陽性反応適中度は5年平均で算出。

※ 網掛けは許容値に達していない市町

● 「受診率」

大腸がん検診の対象者のうち受診された方の割合です。高いことが望ましいとされています。

● 「要精検率」：要精検者/全受診者

受診された方のうち精密検査が必要とされた方の割合で、許容値は7%以下（受診者100人中、要精検が7人以下）とされています。

● 「精検受診率」：精検受診者/要精検者

「要精密検査」とされた方のうち、実際に精密検査を受けられた方の割合で、精度評価の最も重要な指標と位置付けられています。高いことが望ましい値で目標値は90%以上、許容値は70%以上とされています。

● 「大腸がん発見率」：発見大腸がん患者/全受診者 ※市町はH27～R1の5年平均

受診された方のうち大腸がんが発見された方の割合で、基本的に高ければ高い方が望ましい指標です。許容値は0.13%以上とされています。規模が小さい市町の場合その年ごとの増減が大きくなるため、5年間の平均で算出してあります。

● 「陽性反応適中度」：発見大腸がん患者/要精検者 ※市町はH27～R1の5年平均

検診で「要精密検査」とされた方のうち、実際に大腸がんがあった方の割合で、許容値は1.9%以上とされています。規模が小さい市町の場合その年ごとの増減が大きくなるため、5年間の平均で算出してあります。

※ 「精検受診率」は許容値を下回るとは良くないとはされていますが、それ以外の指標は、人口構成による違いや継続受診者の比率、喫煙者の比率などによっても大きな影響を受けるため、下回れば必ず問題があるとは言えません。

また、「大腸がん発見率」「陽性反応適中度」は、小さな自治体では年度による変動が大きいとされています。